

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書**地域密着型サービスの外部評価項目構成**

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4677300065
法人名	社会福祉法人内之浦会
事業所名	グループホーム銀河の里
訪問調査日	平成21年3月6日
評価確定日	平成21年4月20日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4677300065		
法人名	社会福祉法人内之浦会		
事業所名	グループホーム銀河の里		
所在地	〒893-1401 鹿児島県肝属郡肝付町北方576 (電話) 0994-31-6623		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年3月6日	評価確定日	平成21年4月20日

【情報提供票より】(平成21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 4月 8日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 8 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	11.98 人

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート瓦葺平屋建て造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	100 円	昼食	310 円
	夕食	310 円	おやつ	60 円
	または1日当たり	780 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 86.1 歳	最低	80 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉重クリニック 肝付町立病院 おかの歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは町内・民家から離れているが、田園に囲まれた静かな佇まいで母体法人の医療・福祉施設と隣接している。ホームは天井を高くし、木をふんだんに使用した温かみのある建物である。居室も木と障子と畳を基調にした明るく清潔な個室になっている。地域の方々のために開設されたグループホームとして運営されている。管理者・職員は利用者に寄り添う時間を多く持ち、本人の意向を把握し、ケア会議で活発に情報交換し、利用者本位のケアができるよう取り組んでいる。今後はふれあいセンターの交流室を活用し介護教室などのイベントを立ち上げ、地域密着型事業者として、利用者、家族、地域社会に貢献できる活動を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回指摘された地域との付き合い、職員を育てる取り組み、災害対策など改善課題に取り組み、サービスの向上につとめている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	カンファレンスの中で全職員が自己評価に取り組み、自らのケアを再確認し質の向上につながるよう取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	行政、地域代表、民生委員、利用者家族など多くの参加を得て定期的開催されている。自己評価、外部評価の提示、利用者の状況報告や意見交換アドバイスを受けている。開設当初窓にシャッター設備がなく、当会議で台風の際の安全対策として取り付けて欲しいとの意見が出て取り付けてもらうなどサービスの向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や電話でも利用者の様子を報告しながら支援についての相談をしたり、要望を聞くようにしている。家族会を実施し、家族からの意見や苦情に耳を傾け、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内の行事(夏祭り、農業祭、小中学校運動会)に参加している。自治会長、婦人会、消防団との交流があって地域の情報ももらっている。月2回ボランティアを受け入れ、リハビリ体操をしたり、小学校・保育園児の踊りや歌を楽しんでいる。昨年、近くに診療所が開業し診療に来た住民がバス待ちの間、利用者とお茶飲みしたりして交流を持っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に貢献することを前提につくられたホームと云うことで当初より地域密着型サービスとしての理念を全職員で作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やダイニングルームに掲示、家族会の資料にも明示している。職員も一日の始まりに唱和することで意識し、業務に入っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の行事(夏祭り、農林業祭、小・中学校運動会)に参加している。昨年、近くに診療所が開業し地域の方が診察に訪れ、バス時間待ちにホームでお茶のみする機会もある。月2回、ボランティアを受け入れ、リハビリ体操の継続もできている。自治会長、地域の方々から差し入れや婦人会手作りの味噌の購入など地域の情報をもらう場を持ち、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者の自己評価をもとにカンファレンスの中で項目に沿って全職員の意見や想いを引き出し、まとめた結果である。自己評価で自らのケアを再確認し、質の向上に活かしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表、行政職員、利用者家族など多くの参加を得て2ヵ月に1回開催されている。自己評価、外部評価の提示、利用者の状況報告並びに意見交換やアドバイスをもらっている。窓にシャッターがなく、当会議で台風時の安全対策として重要との意見をもらい取り付けてもらうなどサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸手続きや情報をもったり、行政窓口に出かける機会も多く町の担当者に運営上の疑問などその都度相談し指導をもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「ぎんが便り」の家族通信の欄にそれぞれの利用者宅に本人の暮らしぶりや健康状態を報告し面会時や電話でも知らせている。職員異動については「ぎんが便り」で紹介している。金銭管理は毎月の支払日に出納帳と領収書で確認もらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で本人の様子を相談しながら支援についての相談をしたり、要望を聞いている。家族会を実施し、家族からの意見や苦情には耳を傾け運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は月1回の「ぎんが便り」や入居料支払い・面会時に報告している。異動や離職を最小限に抑えるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は2週間行なっている。2ヵ月に1回、ミーティングと勉強会をホーム内でしている。外部研修は勤務体制中の復命研修で法人内研修時報告し、全職員の共有ができています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿屋グループホーム協議会に参加している。利用者の家族が他のグループホームに勤務している関係もあり、見学を交互に行うなど交流ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者はケアマネジャーと自宅訪問し、本人の生活状況を把握し、職員にも相談している。家族、本人ともに見学し、納得してもらってからの利用となる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ともに食事の準備を楽しんだり、得意なことをお願いし、生活面すべてにおいてともに暮らし、寄り添う関係を大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から本人の生きてきた過程の情報収集を図るとともに日頃の言動、しぐさから想いを汲み取り職員間で利用者本意のケアになるよう検討している。職員が利用者に寄り添う機会を多く持ち、得た情報をケア会議に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、職員から情報(2ヵ月に1回のケア会議)を収集し話し合い、統一した見解で介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院後も計画の見直しを行ない、また家族の意見や本人の意向を聞きながら常に現状に応じた介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診、墓参り、お寺参り、自宅訪問など柔軟に支援している。行事の時は家族にきてもらい、お盆、正月は外出、外泊されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	敷地内の診療所と連携がとれ、話し合い、全員で方針を共有している。職員は常に誠心誠意、取り組んでいる。		事業所として統一した指針を明文化することにより、利用者・家族は安心して利用でき、また職員にはリスクの生じない支援となる対策が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	グループホームの倫理要綱にも謳っている。本人の気持ちを大切に考えながら一人ひとりにあった声かけ、誘導に配慮している。記録の仕方、書類の持ち出しなど細心の注意をしている。職員の採用時の契約書もとってある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者自ら表現(自己決定)できるよう、働きかけている。利用者それぞれのできることを見極め、自発的な希望に沿って支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力を把握し、食材の下ごしらえ、配膳や盛付けなど職員とともに行っている。食をととても大切なことととらえ、利用者の笑顔が見られる楽しみ場として特に力を注いでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則一日おきの入浴であるが、利用者のペースに合わせてゆっくり入浴を楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴、趣味、能力を活かせるよう家事、レクリエーションの場で役割をもってもらい意欲につなげている。月に1回は外食、年に1回温泉つき外食、また、法人の4大行事(花見、夕涼み、敬老会、クリスマス会)は家族同伴で楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ベランダや施設周辺を散歩し、戸外の空気を楽しんでいる。天気の良い日は屋外散歩、買い物、ドライブと利用者の状態に合わせて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵はかけていない。見守りを重視し、不用意に外に利用者が出た時にもすぐ、職員や法人関係者の協力をもらい対応できる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内の安全対策委員会もあり、マニュアルを作成し、年2回防災避難訓練(夜間想定)を実施している。職員の家族に自治会長や消防団員もおり地域の協力もできている。公営施設を避難場所にしており、また自家発電も検討中であり、備蓄もできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はチェックし、把握できている。身体状況に合わせてお粥、キザミ食、栄養補助食など提供している。月に3回、栄養士より献立指導をうけ栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く木のぬくもりのある明るいくつろげる空間となっている。季節の花や小物が飾ってあり季節感のある生活空間となっている。また利用者は一人用椅子やソファで思い思い、気の向くまま過ごしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	木と障子と畳を基調にした明るく清潔な居室で、なじみの家具や趣味のもの、日用品が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮されている。		